Mass General Brigham
Mass General for Children

ダウン症と退行

退行とは、思考力や社会性、日常生活での活動が急速に、そして異常に低下することです。また、不健康な行動が増えることもあります。この資料は、ダウン症のある子どもが退行する徴候と、いつケアを求めるべきかを知るのに役立ちます。

退行の徴候

子どもは、以下のような行動を多く経験するのが普通ですが少なくとも６ヶ月間、これらの行動が続くようであれば、主治医に相談してください。また、これらの行動がいつ起こったか、これらの行動の前に何があったのかを振り返ることも役立ちます。

- 適応能力の低下（例：自力でトイレに行く、自力で食事をとるなど）
- 話すことが難しくなる
- 抑うつ
- 強迫観念的な行動の増加または変化
- 反復行動の増加
- 疲労感、頭痛、過敏性、または睡眠障害
- 不安行動
- 攻撃的な行動
- 注意を引く行動
- 自傷行為
- 集中力の欠如
- 膀胱の過活動
- 食習慣の変化
- 頑固さ
- 一人でいることを好む

退行はいつ起こるのか？

移行期

ダウン症のある子どもは、日常的に一貫性、反復性、秩序を好みます。ダウン症のある子どもにとって、変化は難しいものです。移行期や環境が変化する時期には お子さまの退行の徴候に気づくことがあります（例：小学校から中学校への移行、学校生活終了後から成人期への移行）。

思春期と青年期

退行には、体の変化が関係していることがあります。女性の場合、月経周期に関連した身体的・精神的な変化が退行を引き起こすことがあります。

生活の変化

ダウン症のある子どもは、生活の変化に対応するのがより難しいかもしれません。退行は、次のようなときにも起こることがあります。

- 愛する人やペットの死
- 一緒にくらしていた兄弟姉妹が家を出ていくとき
- 新しい家や場所への引っ越し
- 学校や職場の異動

子どもの退行の徴候に気づいたら、どうしたらよいですか？

お子さまに退行の徴候が見られる場合は、主治医やダウン症の専門家に相談してください。

佑 -you-
マサチューセッツ総合小児病院の許可のもと、「佑」（代表：植田紀美子 関西大学 / はしもとクリニック）が翻訳し
和泉出版印刷株式会社が作成しました。日本語訳についてのお問合先　info@you-3c.com